2018年3月期 決算説明会 2018年5月10日 ③丸文株式会社

本日説明のポイント

▮2018年3月期業績

売上高 3,475億円(前期比 28.4%増:過去最高)

42億円(前期比 59.1%増:10年ぶりの40億円超) 経営利益

■2019年3月期業績見通し

売上高 3,150億円(前期比 9.4%減) **経営利益** 43億円(前期比 1.9%増)

■中期経営計画

■デバイス事業、システム事業とも着実に進捗

Topics

- ■丸文セミコンのサムスン電子製半導体・電子部品の販売事業を譲渡
- ■ケィティーエルを丸文に統合

MARUBUN CORPORATION

- ・本日は、「2018年3月期決算の概要」「今期の業績見通し」「中期経営計画」について説 明します。
- ・2018年3月期の業績は、売上高が前期比28.4%増の3,475億円、経常利益が59.1%増の42 億円となりました。
- ・売上高は過去最高、経常利益も2006年度以来10年ぶりに40億円を超え、非常に好調な1年 でした。
- ・今期の見通しについては、売上高は前期比9.4%減の3.150億円を見込むものの、利益率の 改善により経常利益は1.9%増の43億円を見込んでいます。
- ・中期経営計画については後ほど詳しく説明しますが、着実に進捗しています。
- ・また今回決算発表と同時に、連結子会社の丸文セミコンのサムスン電子製半導体・電子部品 の販売特約店事業の譲渡と、同じく連結子会社のケィティーエルの当社への統合を発表しま した。
- ・事業の選択と集中を加速し収益性の向上に取り組むことで、持続的な成長を目指してまいり ます。



・2017年3月期決算について説明します。



▮売上高 3,475億円(前期比 768億円増)

■デバイス事業 通信機器向け半導体の大幅増

■システム事業 レーザ機器の増加

■営業利益 37億円(前期比 8億円増)

■売上総利益 売上増で5億円増加

■ 販管費 退職給付費用など3億円減少

■経常利益 42億円(前期比 15億円増)

■営業外収益 為替差益の計上

▶ 当期純利益 20億円(前期比 4億円増)

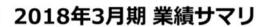
■特別損失 投資有価証券評価損

MARLIBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

3

- ・連結売上高は、前期比768億円増の3,475億円となりました。
- ・これは、主にデバイス事業で、通信機器向け半導体などが好調に推移したことによるものです。
- ・利益面では、売上総利益が5億円増加し、販管費が3億円減少したため、営業利益は前期比8 億円増の37億円、経常利益は為替差益の計上により前期比15億円増の42億円となりました。
- ・当期純利益につきましては、特別損失で投資有価証券評価損1億7千万円を計上した結果、 20億円となりました。



(百万円)	17/3	月期	18/3	月期	前年同期比		
	実績	構成比	実績	構成比	金額	%	
売上高	270,698	100.0%	347,508	100.0%	76,810	28.4%	
デバイス事業	220,184	81.3%	296,524	85.3%	76,340	34.7%	
システム事業	50,513	18.7%	50,983	14.7%	470	0.9%	
売上総利益	20,612	7.6%	21,161	6.1%	549	2.7%	
販管費	17,729	6.5%	17,390	5.0%	△ 339	-1.9%	
営業利益	2,883	1.1%	3,771	1.1%	888	30.8%	
営業外収益	705	0.3%	1,773	0.5%	1,068	151.5%	
営業外費用	937	0.3%	1,327	0.4%	390	41.6%	
経常利益	2,651	1.0%	4,218	1.2%	1,567	59.1%	
特別利益	1	0.0%	6	0.0%	5	328.6%	
特別損失	65	0.0%	311	0.1%	246	378.5%	
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,650	0.6%	2,077	0.6%	427	25.9%	
期末従業員数 (名)	1,397	3	1,381	-	△ 16	-1.1%	

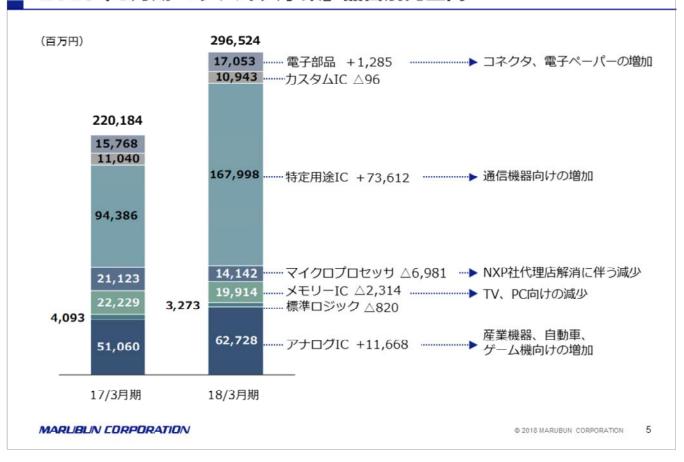
MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

4

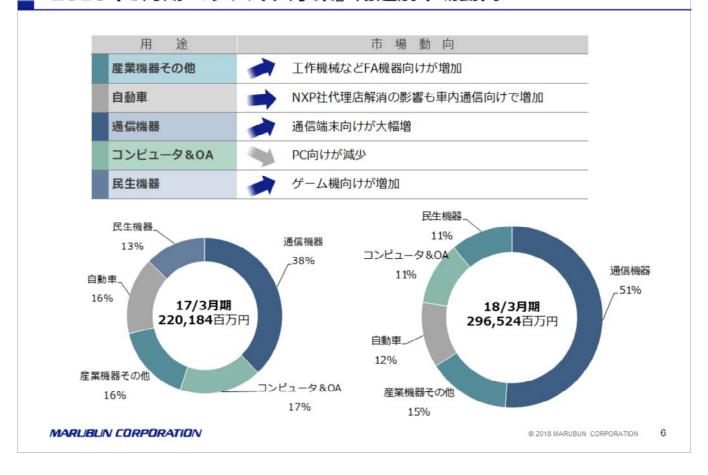
・損益計算書の概要はご覧の通りです。

2018年3月期 『デバイス事業』品目別売上高



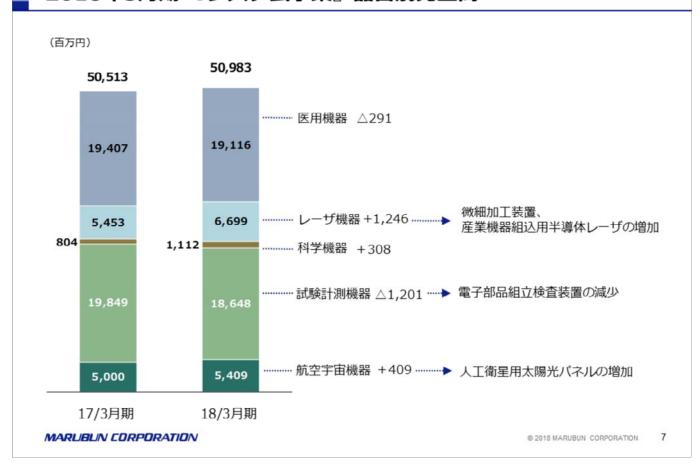
- ・デバイス事業の売上は、前期の2,201億円から2,965億円へと増加しました。
- ・大幅に増加したのは、特定用途ICとアナログICです。
- ・特定用途ICは736億円、アナログICは116億円の増加となりました。
- ・特定用途ICは、通信機器向けが大幅に増加しました。これは従来の顧客への販売高が増えた のに加え、新たに複数の大口顧客を獲得できたことによるものです。
- ・アナログICは、産業機器や自動車、ゲーム機向けが好調に推移しました。
- ・また電子部品も、産業機器や通信端末向けのコネクタや、電子ペーパーが増加しました。
- 一方減少したのはマイクロプロセッサとメモリーICです。
- ・マイクロプロセッサの減少は、NXPセミコンダクタとの代理店契約解消によるものです。
- ・メモリーICは、TVやPC向けのDRAM、Flashメモリが減少しました。

2018年3月期 『デバイス事業』用途別市場動向



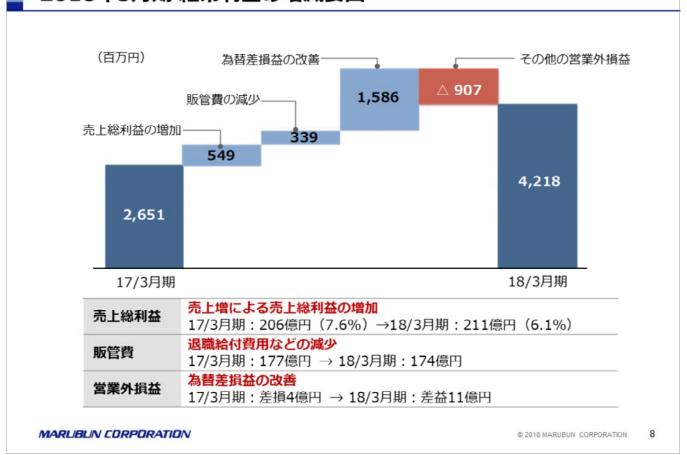
- ・デバイス事業を用途別で説明します。
- ・用途別では、コンピュータ&QAを除き総じて好調に推移しました。
- ・通信機器については売上構成比が38%から51%へと大きく上昇しました。
- ・また当社が注力している産業機器および自動車については、構成比は合わせて32%から 27%へと相対的には減少しましたが、売上高は約100億円増加しました。

2018年3月期 『システム事業』品目別売上高



- ・システム事業の売上は、前年同期の505億円から509億円に増加しました。
- ・増加したのは、レーザ機器と航空宇宙機器で、減収となったのが試験計測機器です。
- ・レーザ機器は、レーザ微細加工装置や産業機器組込み用半導体レーザが好調に推移しました。
- ・航空宇宙機器は、人工衛星搭載用の太陽光パネルなどが増加しました。
- ・一方で試験計測機器は、CMOSセンサー向けの電子部品組立検査装置が、前年好調の反動減 で減少しました。

2018年3月期 経常利益の増減要因



- ・経常利益の増減要因について説明します。
- ・売上総利益は、売上の増加に伴い3Qまで計画を上回って推移していましたが、年明け以降 に進んだ円高の影響でドル建て在庫の評価損を計上したため、売上総利益は5億円の増加に 留まりました。
- ・販管費は、退職給付費用の減少などにより、3億円減少しました。
- ・営業外損益は、年明け以降の円高の影響によりドル建ての借入金の評価益が発生したことで、為替差益11億円を計上しました。
- ・その他、支払利息が3億円増加し、貸倒引当金繰入額を3億円計上しました。
- ・その結果、経常利益は42億円となりました。



(百万円)	17/3月期末	18/3月期末	前期末比	主な増減理由	1
	実績	実績	増減額	土は垣嶌は	1
資産合計	125,984	135,796	9,812	現金及び預金	1,405
流動資産	113,711	123,322	9,611	受取手形及び売掛金	△ 4,623
固定資産	12,273	12,474	201	商品及び製品	15,602
負債合計	78,434	86,619	8,185	支払手形及び買掛金	△ 740
流動負債	67,272	75,765	8,493	短期借入金	9,610
固定負債	11,161	10,854	△ 307		
				株主資本	1,453
純資產合計	47,550	49,177	1,627	その他の包括利益累計額	△ 124
				非支配株主持分	297

MARLIBUN CORPORATION

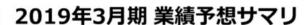
© 2018 MARUBUN CORPORATION

a

- ・総資産は、前期末に比べ98億円増加しました。
- ・これは、売掛債権が46億円減少した一方で、棚卸資産が通信機器向け半導体の需要増により 156億円増加したことよるものです。
- ・負債は、前期末に比べ81億円増加しました。
- ・これは、短期借入金が96億円増加したことによるものです。



・今期の業績見通しについて説明します。



■売上高 3,150億円(前期比 325億円減)

■デバイス事業 340億円減収: 通信機器向けの反動減、サムスンビジネス事業譲渡

■システム事業 15億円増収: 航空宇宙機器、レーザ機器の増加

■営業利益 47億円(前期比 9億円増)

売上総利益売上総利益率の改善

■ 販管費 人件費の増加

■経常利益 43億円(前期並み)

■当期純利益 25億円(前期比 4億円増)

MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION 11

・通期の業績は冒頭ご説明しました通り、売上高が前年度に比べて325億円減の3,150億円、 経常利益は43億円となる見通しです。



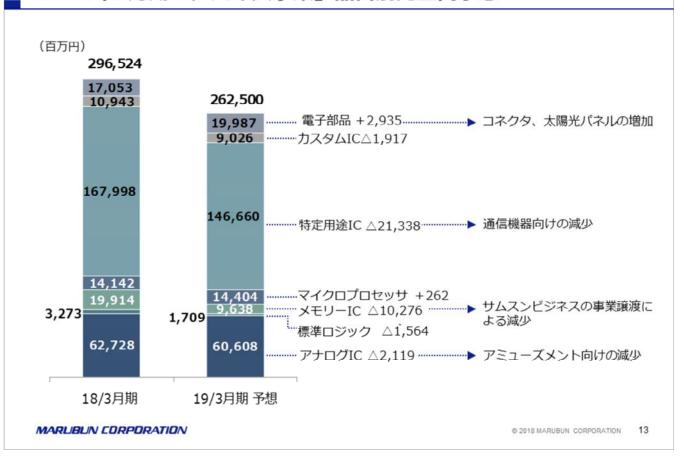
(百万円)	18/3/	月期	19/3	月期	前期比		
	実績	構成比	予想	構成比	増減額	増減率	
売上高	347,508	100.0%	315,000	100.0%	△ 32,508	-9.4%	
デバイス事業	296,524	85.3%	262,500	83.3%	△ 34,024	-11.5%	
システム事業	50,983	14.7%	52,500	16.7%	1,517	3.0%	
売上総利益	21,161	6.1%	22,500	7.1%	1,339	6.3%	
販管費	17,390	5.0%	17,800	5.7%	410	2.4%	
営業利益	3,771	1.1%	4,700	1.5%	929	24.6%	
営業外収益	1,773	0.5%	550	0.2%	△ 1,223	-69.0%	
営業外費用	1,327	0.4%	950	0.3%	△ 377	-28.4%	
経常利益	4,218	1.2%	4,300	1.4%	82	1.9%	
特別利益	6	0.0%	-	-	△ 6	-	
特別損失	311	0.1%	-37	-	△ 311	-	
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,077	0.6%	2,500	0.8%	423	20.4%	

MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION 12

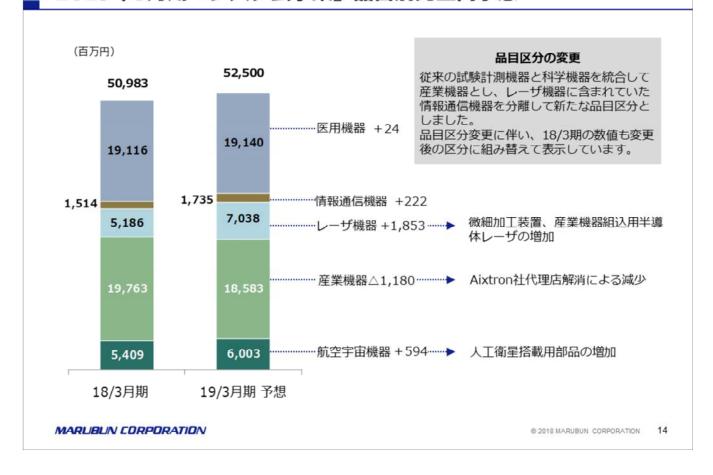
・業績予想の概要はご覧のとおりです。

2019年3月期『デバイス事業』品目別売上高予想



- ・デバイス事業は前期の2,965億円から2,625億円に減少する見込みです。
- ・大きく減少するのは、特定用途IC、メモリーIC、アナログICです。
- ・特定用途ICは、昨年、通信機器向けが非常に好調だったため、予算を保守的に見積もりました。
- ・メモリーICの減少は、丸文セミコンで行っているサムスン電子製半導体の販売特約店事業を トーメンデバイスに譲渡することによるものです。
- ・アナログICは、アミューズメント向けなどの減少を見込んでおります。
- ・一方、電子部品については、太陽光パネルやコネクタ製品での増加を見込んでいます。

2019年3月期『システム事業』品目別売上高予想



- ・システム事業ですが、今年度より品目区分を変更しました。
- ・従来の試験計測機器と科学機器を統合して産業機器とし、また従来のレーザ機器に含まれていた情報通信機器を分離して新たな品目区分としました。
- ・今年度のシステム事業は前期に比べ15億円増の525億円の予算を組みました。
- ・増加するのは、レーザ機器と航空宇宙機器の見込みです。
- ・レーザ機器は前期に引き続き微細加工装置や産業機器組込み用半導体レーザが堅調なのに加 えて、医療用光源や熱加工向けレーザ装置などの増加を見込んでいます。
- ・航空宇宙機器は、人丁衛星用部品の増加を見込んでいます。
- ・一方で、産業機器は減少を見込んでいます。
- ・これはAixtron社との代理店契約を解消したことによりMoCVD装置が減少するためです。

経常利益の増減要因(前期 vs. 予想)



- ・経常利益の増減要因について説明します。
- ・売上面では減収を見込んでいますが、経営利益については8千万円増の43億円を見込んでい ます。
- ・売上総利益については、利益率の高い商品の伸びにより、13億円の増加を見込んでいます。
- ・販管費は、人件費や業務委託費、減価償却費の増加により4億円増加する見込みです。
- ・なお、営業外損益では、昨年度に為替差益11億円を計上したのに対し、今期の予算では為替 差損益は見込んでいないため、経常利益は43億円となる見通しです。

株主還元		
		© 2018 MARUBUN CORPORATION

・株主還元について説明します。

株主還元 配当方針 ■ DOE(株主資本配当率)の推移 1.9(%) 配当性向 連結30%以上 1.6 1.3 14/3月期 15/3月期 16/3月期 17/3月期 18/3月期 配当予想 19/3月期 18/3月期 (円) (予想) 1株当たり年間配当金 30.00 30.00 中間配当 10.00 10.00 20.00 期末配当 20.00 (記念配当5円含む)

- ・当社は、連結配当性向30%以上目安として配当を決定しています。
- ・2018年3月期の期末配当金は、普通配当15円、記念配当5円の合計20円とし、年間では30 円とする予定です。

© 2018 MARUBUN CORPORATION

- ・今年度につきましても、中間10円、期末20円、合わせて年間30円を予定しております。
- ・その結果、配当性向は31.4%となる見通しです。

MARUBUN CORPORATION

中期経営計画 事業戦略と重点施策	
	© 2018 MARUBUN CORPORATION

・中期経営計画の取り組み状況にについて説明します。

事業環境

半導体メーカーの動向

大型のM&Aは 依然として大きな注目

海外

さらなる集約化の動き

国内

東芝半導体の売却

エレクトロニクス市場

先端技術のイノベーションによる新たな市場の広がり

- IoTなど複合技術の深化
- 自動運転技術の開発競争
- ロボット・ウェアラブルデバイス の活用

MARLIBLIN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION 19

- ・まずは、直近の半導体業界の事業環境についてですが、ここ数年の大きな流れである、半導
- ・一方でエレクトロニクス市場を見ますと、先端技術のイノベーションは絶え間なく進んでおり、IoTなど複合技術の深化や自動運転技術の開発競争、ロボットやウェアラブルデバイスの活用といった新たな市場が大きく広がりつつあります。

体メーカーによる大型のM&Aは、依然として大きな注目を集めています。

2016-2018年度 中期経営計画方針

2019年3月期を最終年度とする中期経営計画

業界再編への対応、 キャッチアップ イノベーションへの 積極投資による 新規事業創造

資本効率の向上

MARLIBLIN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION 20

・この様な業界環境の大きな動きの中、2019年3月期を最終年度とする中期経営計画では、 「業界再編への対応、キャッチアップ」、「イノベーションへの積極投資による新規事業創造」、「資本効率の向上」を掲げ、積極果敢に経営を推進してまいりました。

『デバイス事業』4つの取り組み

デバイス事業

- ① ベースビジネスの強化
- ② 成長市場での事業強化
- ③ 新規商材の事業化推進
- ④ グローバル展開の加速

MARUBUN CORPORATION

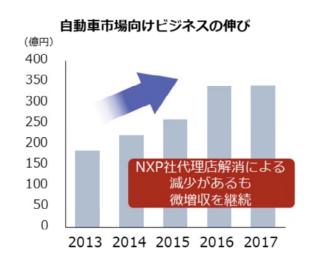
© 2018 MARUBUN CORPORATION 21

・デバイス事業では、①「ベースビジネスの強化」、②「成長市場での事業強化」③「新規商材の事業化推進」、④「グローバル展開の加速」の4つの取り組みを進めてまいりました。

① ベースビジネスの強化

顧客シェアの拡大

- 電源やセンサー、車載分野でのソリューション提案の強化
- アナログ、ワイヤレスなどのキーデバイスの販売体制の拡充





MARLIBLIN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

22

- ・「ベースビジネスの強化」ですが、当社が得意とする電源やセンサー、車載分野でのソ リューション提案の強化、また、アナログ、ワイヤレスなどのキーデバイスの販売体制の拡 充により、顧客のプロジェクトにおける採用点数および顧客シェアの一層の拡大に取り組ん でまいりました。
- ・重点分野の1つである自動車市場向けビジネスですが、ご覧のグラフにその進捗状況を示しておりますが、NXP社代理店契約解消の影響がありましたが伸びは継続しています。また、今後の当社の潜在的な売上動向と関連する、顧客が開発に取り組んでいる新規プロジェクト案件の発掘数につきましても高い水準を維持できております。



■マスマーケット市場に向けた販売体制の強化

- ■専従組織を新設し、新規顧客を開拓
- ■デジタルマーケティングを推進

■ケィティーエルの事業統合

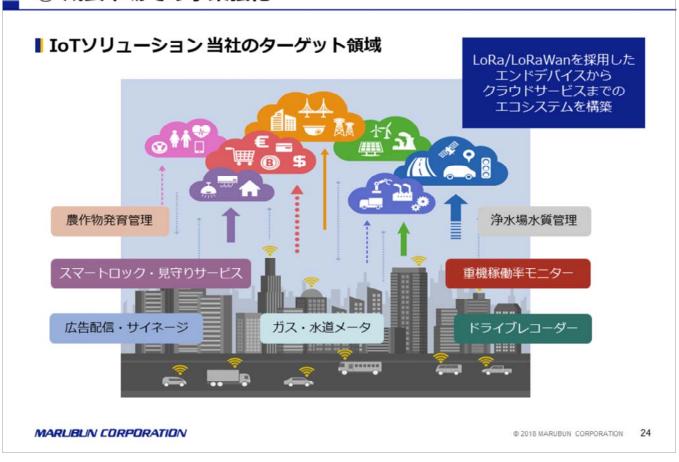
- 2018年10月1日付で丸文と事業統合(2018年5月8日発表)
- ■産機・自動車など注力市場へリソースを結集
- ■経営の効率化を推進

KTL × 包丸文株式会社

MARLIBLIN CORPORATION

- ・今後の取り組みとしましては、当社が得意とする大手顧客に加えて、新たにマスマーケットへの販売体制の強化を考えています。具体的には専任組織を新設してマスマーケット市場の発掘を推進することで、新たな顧客の開拓と利益率向上に取り組んでまいりたいと考えております。
- ・また、新たにWEBサイトを用いたデジタルマーケティングにも取り組み、効果的な提案活動、新規顧客の囲い込みを推進する計画です。
- ・さらに、子会社であるケィティーエルを今年10月1日付で当社に統合し、注力している自動車・産業機器市場でのシェア拡大を目指してリソースを集結するとともに、経営の効率化を図ってまいります。

② 成長市場での事業強化



- ・次に、「成長市場での事業強化」ですが、当社は、IoT関連と医療分野で、取扱い製品の拡充とソリューション提案の強化に取り組んできました。
- ・IoTは、私たちの生活のあらゆる場面で利用が想定されております。
- ・当社では、LoRa/LoRaWanなどの無線技術を採用したエンドデバイスからクラウドサービスまでのエコシステムを構築し、ガス・水道メータなどの社会インフラ向けや、スマートロック・見守りサービスといったセキュリティ市場、サイネージ、重機モニタリング、ドライブレコーダなど様々な用途での実証実験に取り組んでいます。

② 成長市場での事業強化

【IoT関連

Cypress社

■ IoT製品

自動車向けで売上増加



Telit社

■無線通信用IC

- スマートメータで採用
- 社会インフラへ拡販



Afero社

■ IoTプラットフォーム 向け製品

スマートロック等で採 用促進



■ 医療分野

MC10社

■バイオセンサー



- 人工膝関節のリハビリ向け
- 循環器系疾病予防で大学研究機関との共同研 究を推進

MARUBUN CORPORATION

- ・具体的な製品群を申し上げますと、Cypress社IoT製品は、既に自動車向けに数十億円の売 上実績となっており、今後、顧客商権の拡大により一層の事業規模拡大を図ります。また、 同社製品ではマイコンなどIoT以外の製品についての拡販にも取り組み、デバイス事業の主 カビジネスに成長させたいと考えています。
- Telit社のIoT機器向け無線通信ICにつきましても、既にスマートメータ向けに採用されてお り、今後、社会インフラ分野で更なる拡販を目指しています。
- ・Afero社は、強固なセキュリティを保つIoTプラットフォームの特長を活かし、スマートロッ クなどでの採用が進んできております。
- また成長分野を考えている医療分野ですが、MC10社のバイオセンサーに大きな期待を寄せ ています。まずは人工膝関節の術後リハビリ用途の進捗状況ですが、近々米国でFDAの医療 機器認証を取得できると考えており、今後、国内での薬機法の認証取得に向けた活動を推進 します。
- ・また、循環器系疾病予防で大学研究機関との共同研究を行っており、その用途の確立、その 後の事業化を視野に入れております。

③ 新規商材の事業化推進

最先端でユニークな特長をもった技術を発掘

FINsix社(当社:国内総代理店)

■ 新たなビジネス展開が始動

術を発掘し、取り扱いに繋げております。

- FINsix社とトヨタ自動織機との間で開発契約を締結
- 自動車用パワーエレクトロニクスモジュールの小型・軽量・高効率化
- 幅広いレンジのパワーエレクトロニ クスモジュール の開発を推進

■ PC用超小型電源アダプタ 「Dart」

- USB (タイプC) モデルの開発
- B2Cの販路の拡大、拡充



MARLIBUN CORPORATION

@ 2018 MARUBUN CORPORATION

26

- ・「新規商材の事業化推進」につきましては、引き続き、最先端でユニークな特長をもった技
- ・FINsix社の製品で、現在、新たなビジネスでの展開が出てきましたので、ご紹介します。
- ・当社はこれまで、その技術の自動車向けアプローチを進めてまいりましたが、自動車用パワーエレクトロニクスモジュールの小型化の対する高い評価により、今年3月に、当社のアレンジのもと、トヨタ自動織機との間で開発契約が締結され、実用化に向けて取り組みを加速することとなりました。
- ・また雑誌などにも紹介され注目を集めたPC用電源アダプタ「Dart」ですが、販売が好調であり、今後は、従来対応していなかったUSB(タイプC)モデルの開発を進めると同時に、 新たに家電量販店も販路に加え、売上の拡大を図っていきたいと考えております。

- ・最後に「グローバル展開の加速」ですが、アジア・北米に加えて、本格稼働しつつあるヨーロッパでの事業拡大を推進しております。
- ・具体的には、昨年11月に開設した丸文アローヨーロッパで、日系自動車関連のお客様とのビジネスが本格的に立ち上がり、さらに事業規模の早期拡大を目指して、ヨーロッパにおける新たな拠点開設、新規顧客の拡大に取り組む準備をすすめていきたいと考えております。
- ・一方北米における取り組みですが、自動車関連ビジネスに加え、鉄道関係など新たなお客様の開拓にも取り組んでまいります。

『システム事業』の取り組み マーケットイン 顧客志向 カスタマーイン エンジニアリングサービスの拡充 システムインテグレーションの強化

- ・システム事業では、「マーケットインとカスタマーインの顧客志向」をベースにして、「エンジニアリングサービスの拡充」や「システムインテグレーションの強化」に取り組んでまいりました。
- ・システム事業につきましては製品分野ごとの取り組み状況をご説明いたします。

『システム事業』分野別の取り組み

航空宇宙機器

- ■ロケットや航空機、電力設備向け注力
- ■レーダ設備・センサーの校正サービス拡大で 収益基盤を強化



レーザ機器

- ■産業機器組込み用レーザを拡販
- ■医療機器向け高輝度光源を拡販



MARUBUN CORPORATION

- 「航空宇宙機器」では、ロケットや航空機、電力設備向けのビジネスに注力しております。 今後は、ロケット、人工衛星向けに受注が好調な高信頼性部品のシェア向上を推進します。 また、航空機向けでは、レーダ設備やセンサーの校正サービスにおいて、今後もサービス拡 販と対象製品の拡大に取り組み、収益基盤の強化に努めていきたいと考えております。
- ・「レーザ機器」では、これからも産業機器組込み用レーザと医療機器向け光源の拡販に注力 します。

『システム事業』分野別の取り組み

情報通信機器

- ■東京五輪に向け5G通信、自動運転技術への投資 が拡大
 - PCTEL社スキャニングレシーバ
 - Napatech社ネットワークアダプタ
- ■競争力ある製品を通信キャリヤ・データセンター向けに拡販
 - Finisar社光トランシーバ



PCTEL社 通信干渉源特定ツール

医用機器

- ■各仕入先の取扱商材の拡充
- ■エンジニアの増強によるメンテナンスサービスの拡充



MARLIBLIN CORPORATION

- 30
- ・「情報通信機器」では、東京オリンピックに向けたインフラ整備や第5世代移動体通信網の 構築、自動運転技術の実用化など、設備投資が拡大しています。
- ・当社の現在の取り組みとしましては、通信キャリア向けにはPCTEL社のRFスキャニングレシーバやNapatech社のネットワークアダプタの拡販に注力しており、大容量化・高速化が著しく進むデータセンター向けにはFinisar社の光トランシーバの採用提案を推進しております。
- ・「医用機器」につきましては、各仕入先の取扱商材を拡大するとともに、エンジニアの増強 によるメンテナンスサービスの拡充を進めています。
- ・事業環境の大きな変化や技術革新の進んでいく中、選択と集中により、成長分野への取組み を強化することで、収益性と資本効率の向上に取り組んでまいりますので、皆さまご支援の ほどよろしくお願いいたします。

参考情報

© 2018 MARUBUN CORPORATION



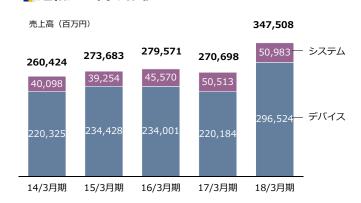
会社概要

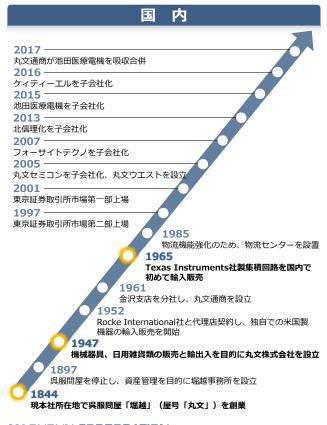
創 業	1844年(弘化元年)					
設 立	1947年(昭和22年)7月					
所在地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号					
資 本 金	62億1,450万円					
決算期日	3月31日					
代表者	代表取締役社長 水野象司					
売 上 高	連結 3,475億円(2018年3月期) 単体 2,278億円(2018年3月期)					
従業員数	連結 1,381名(2018年3月末) 単体 670名(2018年3月末)					
株式上場	東京証券取引所 市場第一部 (コード:7537)					

事業領域



連結売上高の推移





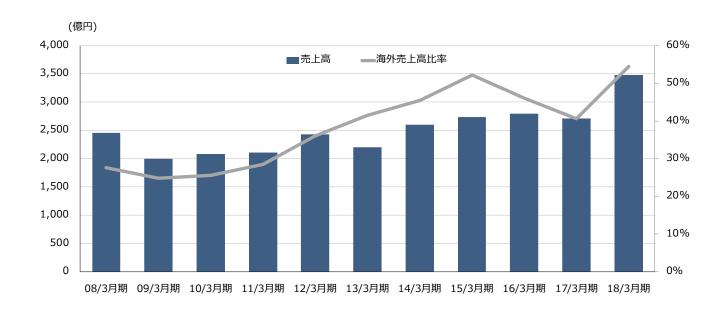


MARLIBLIN CORPORATION

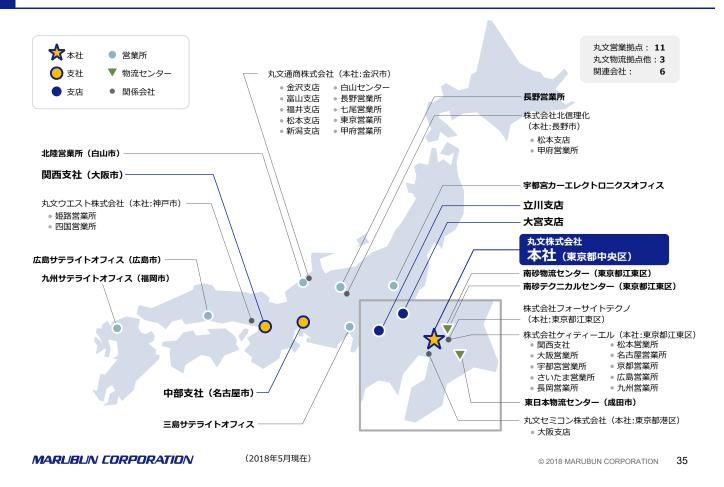
© 2018 MARUBUN CORPORATION

33

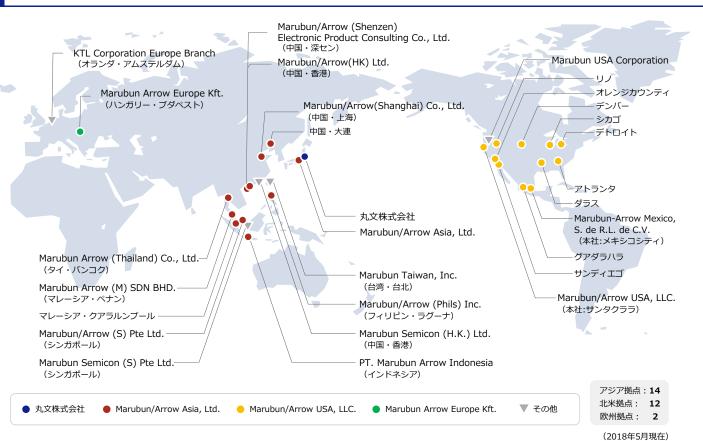
中長期トレンド(売上高・海外売上高比率)



国内拠点

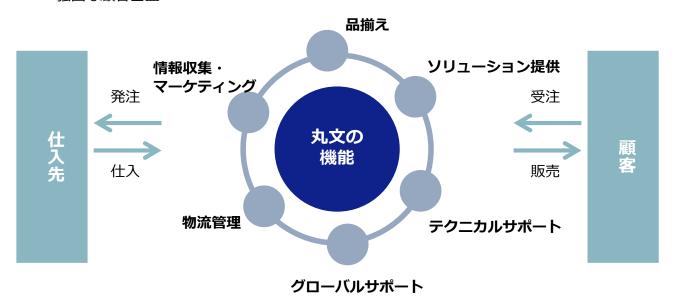


グローバルネットワーク



デバイス事業:特徴と強み

- ■海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- ■米国アロー社(80ヶ国、345拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- ■高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- ■強固な顧客基盤



MARLIBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

37

デバイス事業:グループ会社概要

社 名	住 所	設立年月	出費比率	事業内容	
丸文セミコン株式会社	東京都港区	2005年3月	100.0%		
Marubun Semicon (H.K.) Ltd.	Hong Kong, China	2010年1月	100.0%	サムスン電子製半導体・電子部品の	
Marubun Semicon (S) Pte. Ltd.	Alexandra Road, Singapore	2013年11月	100.0%	仕入販売	
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100.0%	丸文アローUSAの持株会社	
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100.0%	台湾製デバイスの仕入販売	
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50.0%	丸文アローシンガポール、 丸文アロー香港の持株会社	
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50.0%		
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50.0%		
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50.0%		
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50.0%		
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50.0%		
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50.0%	海外進出した日系企業への	
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co.,Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50.0%	半導体・電子部品の仕入販売	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50.0%		
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50.0%		
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50.0%		
Marubun Arrow Europe Kft.*	Budapest, Hungary	2017年11月	50.0%		
株式会社ケィティーエル	東京都江東区	1966年11月	100.0%	半導体・電子部品の仕入販売	

^{*} Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexico、Marubun Arrow Europe Kft.は持分法適用の関連会社です。

デバイス事業:取扱製品(サプライヤ別)

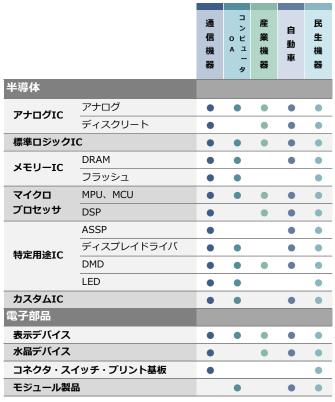
								サプラ	イヤ	(アルフ	ファベッ	ト順)					
			旭化成 エレクトロニクス	Broadcom (米国)	Cypress (米国)	Eink(台湾)	FINsix (米国)	IDT (米国)	Littlelfuse (米国)	Maxim (米国)	Molex (米国)	Qorvo (米国)	Samsung (韓国)	SanDisk (米国)	セイコーエブソン	セイコーインスツル	TexasInstruments (米国)
	アナログIC		•	•					•	•		•				•	•
	標準ロジック	7IC															•
		DRAM											•				
半	メモリーIC	フラッシュ											•	•			
+		その他メモリー						•					•	•		•	
導	マイクロ	MPU、MCU													•		•
-3	プロセッサ	DSP	•														•
体		ASSP	•	•	•			•		•		•			•		•
	特定用途IC	ディスプレイドライバ											•		•		•
	NAL/IIÆIC	DMD															•
		LED											•				
	カスタムIC		•										•		•		
電	表示デバイス	ζ				•							•				
子	水晶デバイス	ζ						•							•	•	
部		スイッチ・プリント基板									•						
品	モジュール	및 品					•										

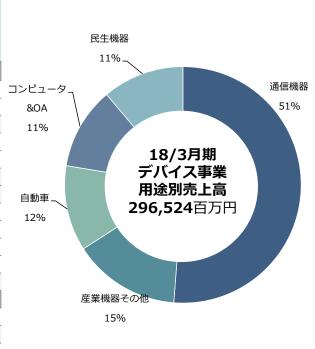
MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

39

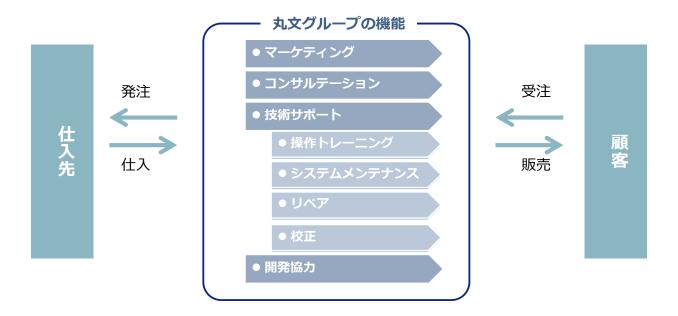
デバイス事業:主要取扱い製品(用途別)





システム事業:特徴と強み

- ■ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- ■システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート



MARLIBLIN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

41

システム事業:グループ会社概要

社 名	本 社	設立年月	出費比率	事業内容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100.0%	医用機器および試験計測機器の 仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社北信理化	長野県長野市	1951年11月	100.0%	試験計測機器の仕入販売
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51.0%	システム製品の修理・メンテナンス、 エンジニアリングサービス

システム事業:主要取扱い製品①

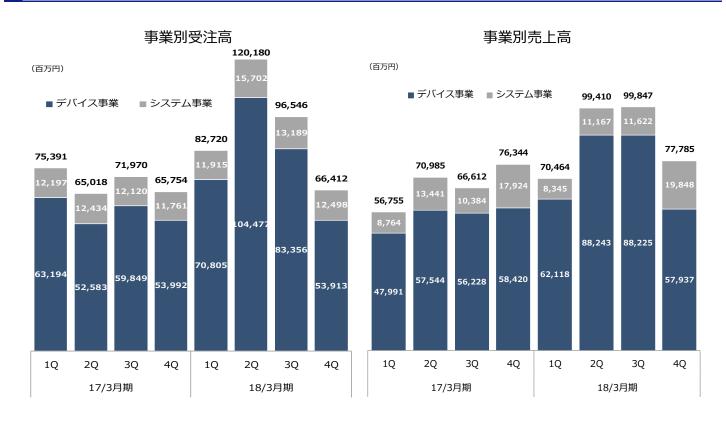
分野	主要取扱商品	主要仕入先	
産業機器	検査装置 組立・検査装置	ユニハイトシステム、FEI、島津製作所、 アキム、セイコーエブソン	- 情報通信機器
/生术/从如	組込ソリューション 科学機器	ARTESYN、Aitech、ADLINK、 LayTec、Riber	レーザ機器 3%
医用機器	画像診断機器	シーメンス、島津製作所、 コニカミノルタヘルスケア	39%
区/17/1/2016	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、 カネカメディックス	航空宇宙機器 11%
レーザ機器	半導体レーザ レーザ加工機	nLight、Laserline	18/3月期 システム事業
ν 910x ar	光機器	Excelitas Technologies、 Luminus Devices、First Sensor	品目別売上高 50,983 百万円
航空宇宙機器	宇宙関連機器 計測・センサ	Tele Communication Systems、 GEセンシング、Meggit、Plascore	
则工于田城部	航空関連機器 高周波電子機器	TEXTRON、L3 Technologies、 CPI、Bird	医用機器
情報通信機器	RF・光通信 測位タイミング	PCTEL、Finisar、EXFO、 Microsemi、Calnex、Spirent	37%

MARLIBUN CORPORATION

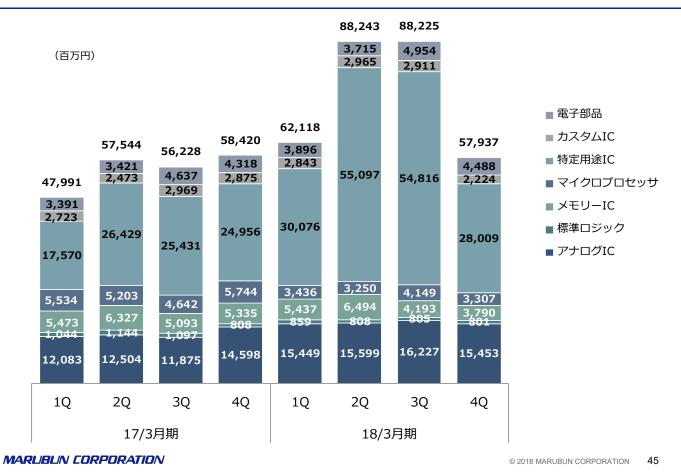
© 2018 MARUBUN CORPORATION

43

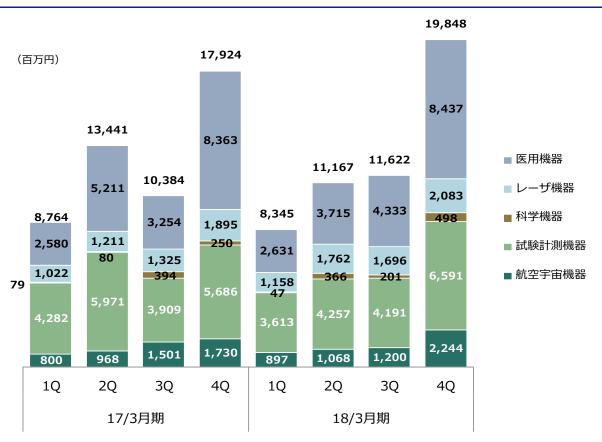
業績四半期推移(事業別受注高・事業別売上高)



業績四半期推移(デバイス事業:品目別売上高)



業績四半期推移(システム事業:品目別売上高)



本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び 合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により 異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp

MARUBUN CORPORATION